



○邸再生

■富山県西部に位置する砺波平野の農家の多くは、屋敷の周囲に約1ヘクタール程の水田を持つ。そのため、隣の家までおよそ100m間隔で、1軒1軒離れて点在する散村となっている。散村の形成プロセスには諸説あるが、平野を開拓し農業経営に最も便利な形で発展していった結果と言われている。

■伝統的民家は「アズマダチ」と呼ばれ、切妻・妻入・瓦葺きで、大きな三角妻面に、太い梁・束・貫の間を漆喰塗で構成され、その中心には「ワクノウチ」と呼ばれる太い柱・太い梁で組まれた、剛性の高い架構が使われた「広間」がある。

■この民家もまた散居の中にあるアズマダチの住宅で、建築されてからちょうど100年の節目の年に再生を行った。

■その時々で板金やサッシで修繕されてきた外観は、建築当初の漆喰壁に戻し、内部は現代のライフスタイルに合ったものに改修している。

■家の中心にある「中の間」を自然光と風を取り込む装置として外部空間（中庭）とすることで、田の字型プランの欠点である中心部の暗さを解消している。

■中庭を介して各部屋・各階の雰囲気を感じることができ、家族がお互いの存在を感じつつも相互のプライバシーを保つ緩衝装置としても機能している。

■木組みの持つ力強さ・架構の美しさ・年月を重ね重厚さを増した風格が空間の中に生きたデザインとしている。

■フローリングには富山県産材の杉板30mmを使用し、柔らかい歩行感と共に経年による変化が美しい味わいとしてその表情を変化させている。

■昨今の少子高齢化・新しいライフスタイルへの適合性・維持管理上の課題から、「アズマダチ」をはじめとした散居村を構成する民家やかいによがの減少が加速している。

■砺波平野における伝統的な景観の保護と、それを形成する民家の継承へ向け、本計画が改修・再生の一つのモデルとなればと思う。

DATA

所在地：富山県砺波市東保

主要用途：専用住宅

家族構成：夫婦+親夫婦+子供3人

設計：おおみ設計

施工：徳永建設

主体構造：木造2階建て 枠の内造り

建築面積：323.8m²

延床面積：429.9m²

最高高さ：8.8m

主な外部仕上げ：

屋根/日本瓦葺き

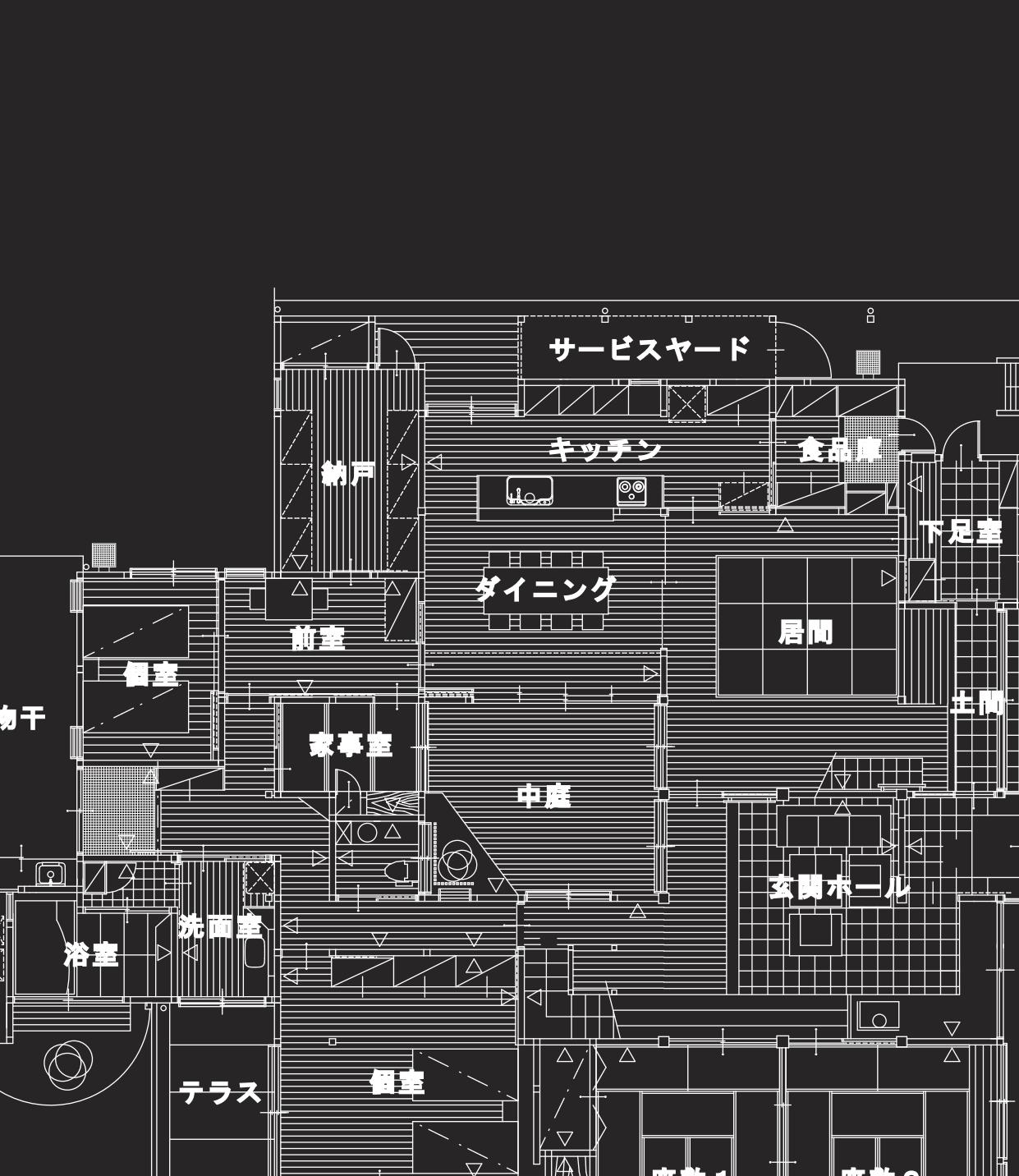
外壁/漆喰塗り+杉板張り腰壁

主な内部仕上げ：

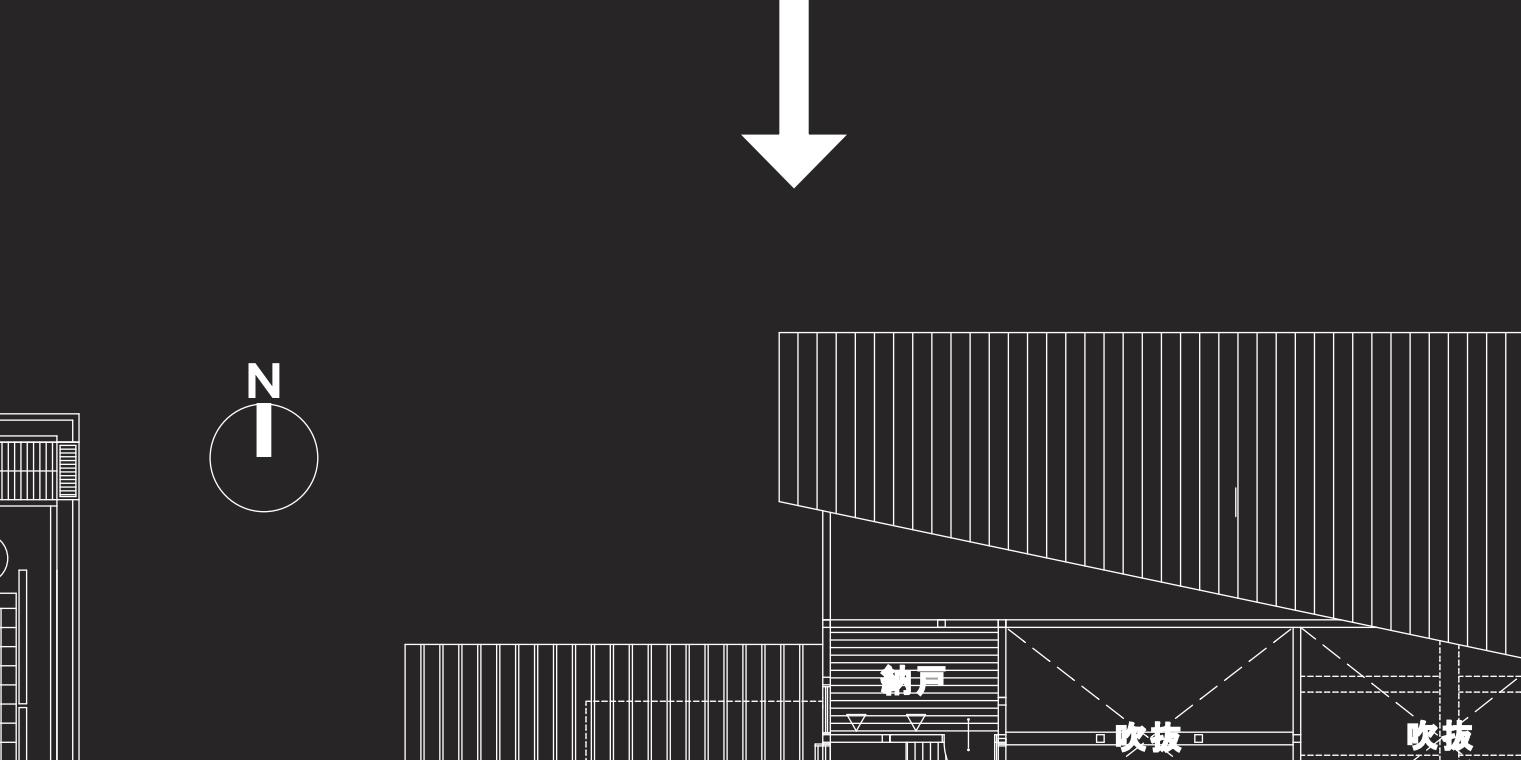
床/杉フローリングt=30

壁/漆喰塗り

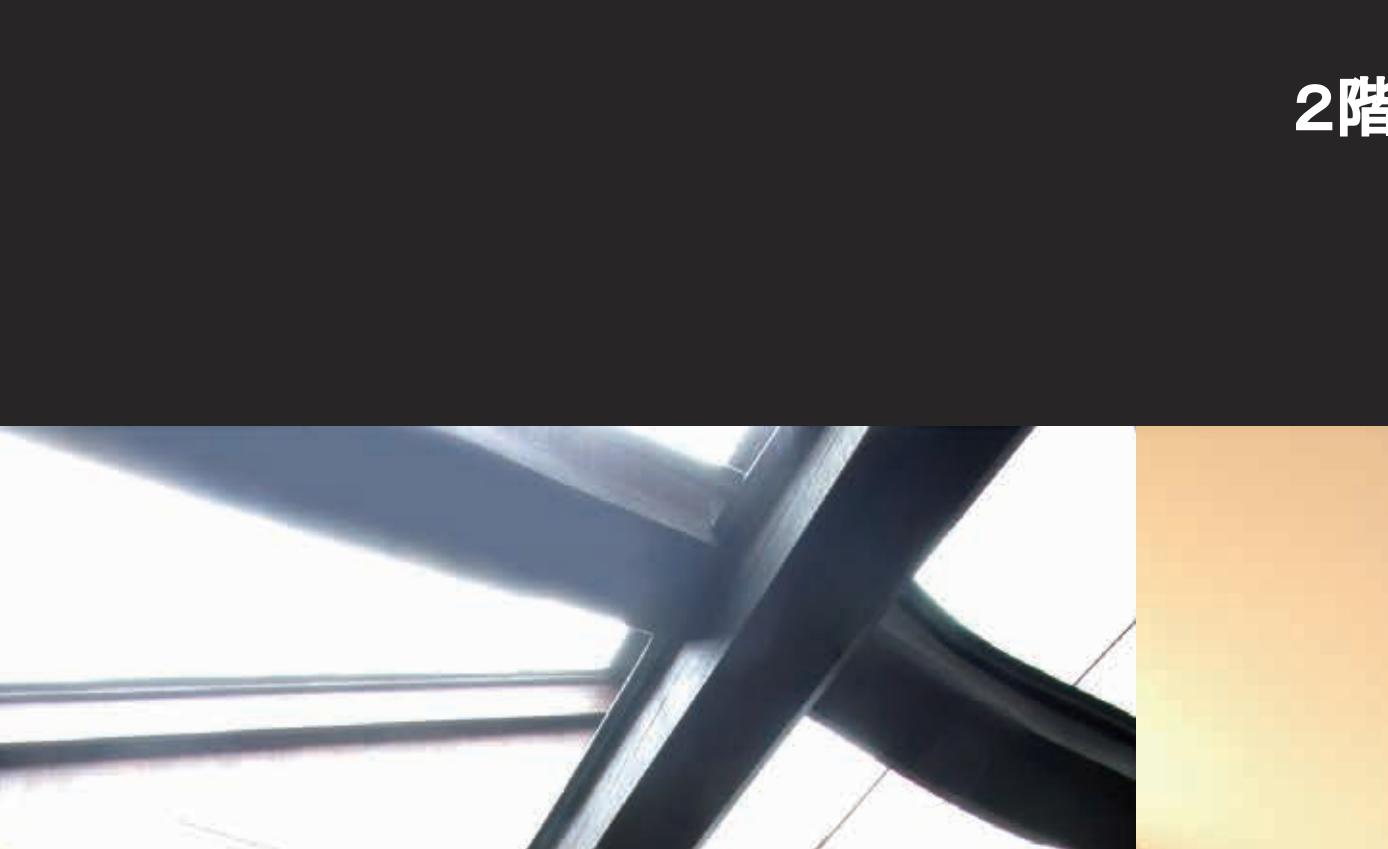
天井/PBT=9.5EP塗り



改修前平面図



1階平面図



2階平面図

